

公益社団法人 日本臨床細胞学会
平成 28 年度(2016 年度)第 1 回理事会議事録

日 時：平成 28 年(2016 年)4 月 30 日(土) 10 時 00 分～13 時 00 分

場 所：日本臨床細胞学会事務局会議室(地下 2 階)

役員総数：40 名(理事 40 名, 監事 3 名)

出席総数：理事 37 名, 監事 3 名

(理事長) 青木大輔 (副理事長) 紀川純三, 越川卓, 植田政嗣, 佐藤之俊 (理事) 池田徳彦, 石井保吉, 伊藤仁, 稲山嘉明, 井上健, 榎本隆之, 岡本愛光, 小田瑞恵, 落合和彦, 加来恒壽, 加藤久盛, 河原栄, 川本雅司, 小西登, 小松京子, 齋藤豪, 白石泰三, 竹島信宏, 寺本勝寛, 内藤善哉, 長尾俊孝, 羽場礼次, 平井康夫, 広岡保明, 藤井多久磨, 前田一郎, 森井英一, 森谷卓也, 八重樫伸生, 山城勝重, 横山繁生, 横山正俊

(監事) 長村義之, 佐々木寛, 長谷川壽彦

(総務委員会幹事) 柿沼廣邦, 垣花昌俊, 所嘉朗, 富永英一郎, 星利良, 町田知久, 丸田淳子, 山下博

(細胞診専門医会会長) 土屋眞一

(制度審議委員陪席) 平田哲士

(平成 28 年度総会議長) 長谷川清志

(会計士) 中田ちず子

欠席者：(理事) 伊藤潔, 生水真紀夫, 中村直哉

(制度審議委員陪席) 北村隆司

議長選出の議：本学会定款第 33 条に則り, 池田徳彦総務委員長が議長となった。

議長は定款第 34 条に則って, 理事総数の過半数(37 名)の出席により定数を満たしたので本法人の理事会が成立した旨を述べた。

議事録署名人選出：定款 35 条に則り, 議事録署名人は理事長並びに監事 3 名とすることが確認された。

理事長挨拶：青木大輔

理事会議事録案確認(平成 27 年度第 4 回理事会)：前理事会の議事録案が確認された。

1. 理事長報告：青木大輔

平成 28 年度の最初の理事会である。本日の理事会は総会での審議が円滑に進むように議

案となる平成 27 年度の決算案と事業計画報告案などの総会関連事項を承認して頂く重要な理事会である。是非、先生方に多数のご提案、詳細な審議をして頂き、総会の関連事項を承認して頂きたい。また、本日の理事会が終わった段階で全会員に総会の内容をお知らせする作業を行う。議決内容の決定については、委任状を含めた出席過半数の会員の意向を頂かなければいけないため、是非、先生方にもご協力頂きたい。本日は、総会の議長をお願いした 獨協医科大学 長谷川清志先生にご陪席頂いている。よろしくお願い致します。

今月末、5 月 28-29 日は第 57 回日本臨床細胞学会春期大会 (JSCC)、5 月 29-6 月 1 日は The 19th International Congress of Cytology (ICC2016) を開催する。29 日は JSCC、ICC2016 が同時開催となり、JSCC にご参加される皆様には若干のご不自由があると思うが、Congress president dinner などの外国の先生方と一緒に楽しめる企画を準備しており、多数の先生方にご参加頂けることを期待している。

2. 副理事長報告

紀川純三：学術、編集、国際交流、IAC を担当する。学術担当として学術集会のあり方を検討する。専門医機構の指針に伴い、種々のセミナーや専門医に関する必須の課目が出てきており、春・秋の学術集会について効率的な学術運営が必要となってきた。内藤学術委員長にお願いし、学術委員会内にワーキンググループを設置し、学術集会のあり方を検討していくことが決定した。その詳細については、今後、順次行っていく予定である。

越川 卓：認定試験、検査士、教育を担当する。担当する各委員会の平成 28 年度の事業については例年どおり順調に進んでおり、その事業内容については各委員会委員長より報告して頂く。本年度の特別事業として 5 月末の国際細胞学会 (ICC2016) 中に CT (IAC) および cytopathologist 資格認定試験が行われる。現在その準備を進めている。

植田政嗣：専門医制度、専門医を担当する。日本専門医機構の指針に従い細胞診専門医制度の改革・推進を行っている。細胞診専門医資格更新制度と教育指導医認定制度の施行細則案が理事会にて承認され、今後はそれに沿って順次進めていく。本年度は本学会がサブスペシャリティ学会として日本専門医機構に認証されることを第一目標としている。日本専門医機構よりサブスペシャリティ学会に向けた専門医研修プログラム整備基準についての正式な発表はまだないが、基本領域に準じたものであると推測される。これを基に、細胞診専門医会の細胞診専門医あり方委員会 森井副委員長のご尽力により専門医研修モデルプログラム案を作成中である。今後も様々な情報を得るようにし、迅速に対応できるように準備をしていきたいと思う。青木理事長の御高配にて、本年度の春期大会にて細胞診専門医制度に関するシンポジウムを行う。細胞診専門医の現状と今後の展開について臨床・病理の両面から

討議し、方針を固めて頂けることを期待している。また、より多くの全国の細胞診専門医の先生に周知徹底して頂きたく、先般に専門医全員に通達した春の専門医会のお知らせの中に、専門医制度の今後の推移についてと、佐藤副理事長の御高配により細胞診専門医会報 52 号中に新研修医制度の詳細を記載させて頂いたことをアナウンスした。

佐藤之俊：総括、財務、渉外を担当する。予算・事業報告に関しては、学会の財務状況が厳しい状況にあるため、適正な事業が適正に進められるよう、皆様にご協力頂きたい。また、本年度は評議員の改選の年となる。先般、4月22日を締め切りとし、評議員申請を行ってきた。しかし、熊本を中心とする大震災の影響、宣伝不足による会員への周知徹底が出来なかった等々の理由より、評議員の申請者数が施行細則に則った基準の評議員定員数に満たなかった。このため、青木理事長と相談し、今後の種々の学会業務の遂行に支障をきたす可能性が高いと判断し、評議員申請の期限を4月28日まで延長した。申請締め切り後の現在、総計499名の申請があり、予定の評議員定員数である455名を上回り、今後は粛々と評議員の選考作業を続ける。

3. The 19th International Congress of Cytology (略称：ICC2016) 準備状況：(青木大輔理事長)

会期：2016年5月28日(土)～6月1日(水)(5日間)

場所：神奈川 パシフィコ横浜

4. 第57回平成28年(2016年)春期大会準備状況：(青木大輔理事長)

会期：2016年5月27日(金)、28日(土)、29日(日)

場所：神奈川 パシフィコ横浜

第19回 IAC 国際細胞学会(ICC2016)と合同開催

5. 第55回平成28年(2016年)秋期大会準備状況：(横山繁生理事)

会期：2016年11月18日(金)、19日(土)

場所：大分 B-ConPlaza (別府国際コンベンションセンター)

6. 第58回平成29年(2017年)春期大会準備状況：(植田政嗣副理事長)

会期：2017年5月26日(金)、27日(土)、28日(日)

場所：大阪 大阪国際会議場

7. 第56回平成29年(2017年)秋期大会準備状況：(加来恒壽理事)

会期：2017年11月18日(土)、19日(日)

場所：福岡 福岡国際会議場

8. 各種委員会での議事の経過概要および議決結果

総務委員会(委員長 池田 徳彦)

[事業報告・報告事項]

1. 常務理事会, 理事会, および総会の運営実務を担当した.
2. 規程に則り平成 28 年度の会費請求を行った.
3. 資料に沿って総会の議事次第が説明された.

〔審議事項〕

1. マイナンバー制度への対応
資料に沿ってマイナンバー外部委託会社の見積一覧が提示され, 今年度の確定申告よりマイナンバーが必要であるため, 委託会社の決定は理事長・副理事長・計理委員会・総務委員会に一任することが承認された.
2. 大会長への感謝状授与について
総会時の春期大会長への感謝状は通常は理事長から授与されるが, 今回の大会長は青木理事長であるため, 前理事長の佐々木寛先生が感謝状を授与することが提案され, 承認された.
3. 大会場における会員カードまたはシールの再発行ブース設置について
本年度春期大会において細胞検査士のクレジットが25点, 50点, 75点の3種類と複雑であり, 前年度より行っている受付方法では煩雑となることが予想される. このため, 細胞検査士の受付方法を「会員カード」または「検査士カード」のバーコード読み取りに変更すること, 紛失された検査士のために再発行ブース設置することが提案され, 承認された.

情報処理委員会 (委員長 伊藤 仁)

〔事業報告・報告事項〕

1. 学会ホームページの全面的な改修は, 春期大会(5月2週目)までに完了予定で進めている.
2. その他
 - ・2016年4月7日現在のマイページログイン率
医師:35.24% 技師(正会員):48.62% 技師(準会員):42.49%
名誉会員:25.00% 功労会員:30.00% 合計:40.10%

〔審議事項〕

特になし

学術委員会 (委員長 内藤 善哉)

〔事業報告・報告事項〕

1. 学会賞・技師賞・班研究課題の応募について, ホームページ及びイエローページに掲載した.
 - ・学会賞・技師賞・班研究課題の新申請書を作成, チェックリストを新たに追加した.
2. 最優秀論文賞の選考を規定に則り行った. 応募数は和文1名, 英文6名であった.